

熱帯性ナマコ類の資源回復へのココナツ繊維の有効利用

生産

実証

品目:熱帯性ナマコ類

資源管理

概要

熱帯海域ではナマコ類の乱獲が著しいが、種苗放流による資源回復策は十分に普及していない。今回、簡易的な天然採苗手法を検討するため、ソロモン諸島においてココナツ繊維を利用した野外採苗試験を実施した結果、熱帯性ナマコ類に対する天然採苗の有効性が初めて示された。また、複数の素材を比較した水槽実験から、ココナツ繊維の採苗効率が高いことも分かった。

背景・効果・留意点

天然採苗とは、海に係留した素材に無脊椎動物等の種苗を自然に付着させる方法である。これまで温帯性のマナマコ属2種で天然採苗の前例があるが、熱帯性のナマコでは報告が無かった。そこで、熱帯性のオニイボナマコの人工種苗を用い、素材別の採苗効率を水槽実験で比較したところ、ココナツ繊維(図1)とメッシュ生地が、カキ殻よりも優れていることが明らかになった。次に、ココナツ繊維を網袋に詰めた簡易採苗器を3か月間、海に係留(図2)すると、複数種の稚ナマコ(図3)が採苗された。この採苗器は、常食されるココナツの廃殻を用いて安価に作成でき、容易に設置できることから、減少したナマコ類の資源回復に取り組む地域漁民への普及が期待される。



図1 ココナツの廃殻から繊維を剥がす



図2 スノーケリングで採苗器を設置



オオクリイロナマコ *Actinopyga lecanora*

オオイカリナマコ *Synapta maculata*



オニイボナマコあるいはその近縁種 *Stichopus cf. horrens*



種が同定できなかった個体

図3 天然採苗された稚ナマコ



技術の詳細

<https://www2.fra.go.jp/xq/seika/seika32/>

問い合わせ

techcatalog@fra.go.jp